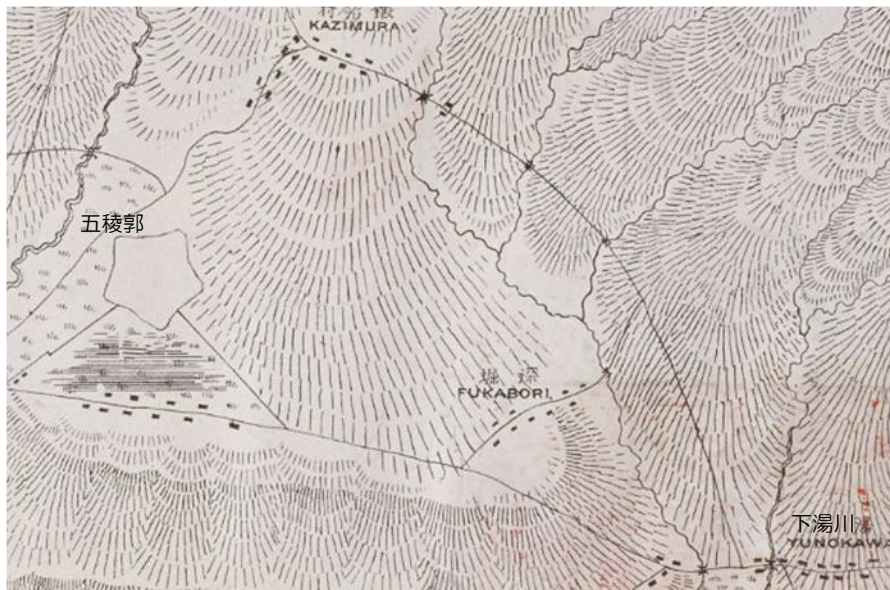
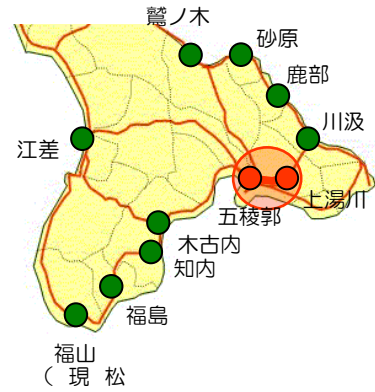


上湯川から五稜郭への道



上湯川～五稜郭の道



北海道三角測量/函館 明治8年

現在の上湯川からの道は全て舗装された道道 83 号線が、下湯川（現湯川町）まで続いていが、当時の旧道の面影は全く無い。

上湯川を出発した隊は、本道（現在の道道 83 号線）を土方と陸軍隊が、下湯川まで進む。額兵隊は南下して志海苔海岸を経由して下湯川に出た。（現在の湯倉神社付近）

下湯川からは道が 2 通りあった。一つは現在市電が走っている道で、湯川温泉から五稜郭までは当ても同じ様な位置に道が付いていた。（上図参照）

もう一方の道は現在の通称産業道路（道道 100 号線）とほぼ同じ位置に付いていた道で、この道は現在の鍛冶町の交差点から左に折れて、五稜郭公園の裏門に向かう道になる。

隊はどちらの道を歩いたのかの、明らかな書類は残っていないが、裏門から入ったという文書がある事から、現在の通称産業道路に近い道を歩いて、五稜郭の北側にあった、御役宅を通過して裏門から入場したのではないだろうか。

額兵隊が進攻した、上湯川～志海苔～下湯川の道（間道）

星日記によると、額兵隊は金堀沢通りを進んで志野里（志海苔）海岸に出たとあるが、金堀沢通りについては何処なのか不明だが、古い地図では志海苔経由の道は書かれている。途中の根崎には根崎台場があったので、ここの様子を見てから、下湯川で本道隊と合流して、五稜郭に向かったのではないか。

現在この道は、函館空港が出来ており、道が明確には分からない。金堀沢を歩いているが、この沢の名前を探し出す事は出来なかった。

ただし、志海苔に抜ける道は現在存在する。それが旧道なのかの判断は出来ない。志海苔に出れば海岸線の国道 278 号線がある。

その道を進んで松倉川手前を北上すれば、下湯川（現湯川町）の湯倉神社に着く。ここには当時温泉があり、後に、旧幕府軍の野戦病院として使われた。本隊の陸軍隊及び土方と合流したのも湯倉神社付近だろう。



旧道の面影は全く無い（道道100号線）